

第5期宮城県食育推進プランの目標値 (新たに設定するもの、目標値を見直すもの)

新たに目標として設定する項目①

目標項目	ベースライン値 (R6)	目標値 (R12)	データソース
食育に関心を持っている人の割合（成人）	75.0%	83%	R6食育・食生活実態調査

目標値の設定理由

- 健全な食生活の実践や地域食材の活用等は、食育への興味を持つことが、行動につながる第一歩と考えられることから、食育に関心を持っている人の増加を目標項目として設定します。
- 国の第4次計画でも同じ目標指標で目標値が90%と設定されていますが、本県のベースライン値が国よりも低いため、実現可能性を考慮し、ベースライン値から、おおむね1割の増加を目標値として設定します。

【参考】国第4次計画の目標

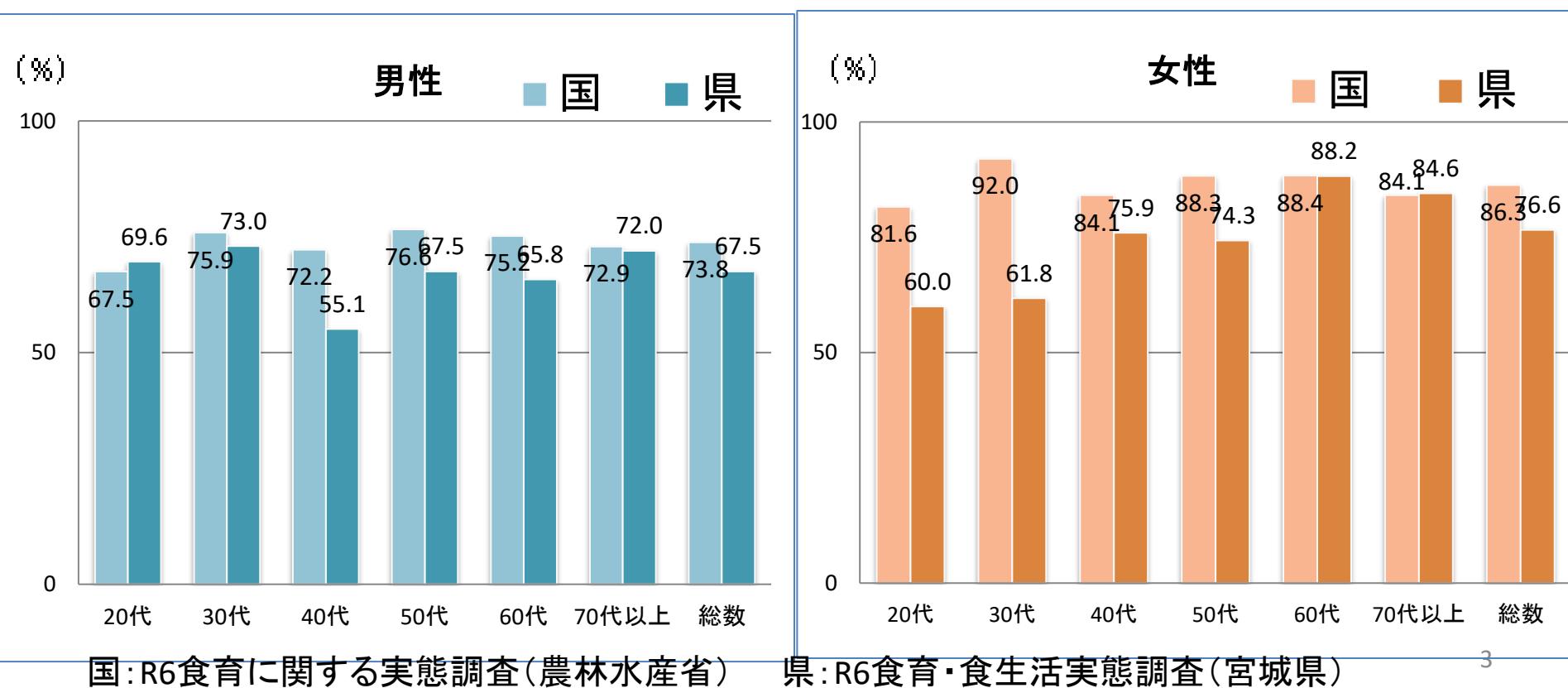
「食育に関心を持っている国民の割合」

ベースライン値 83.2% → 目標値 90%以上

データの動向

- 国と比較すると、男女とも、ほとんどの年代で、国よりも食育への関心度が低い状況です。
- 年代別では、男性だと40歳代が最も関心度が低く、女性では20～30歳代の若い世代で関心度が6割程度となっています。

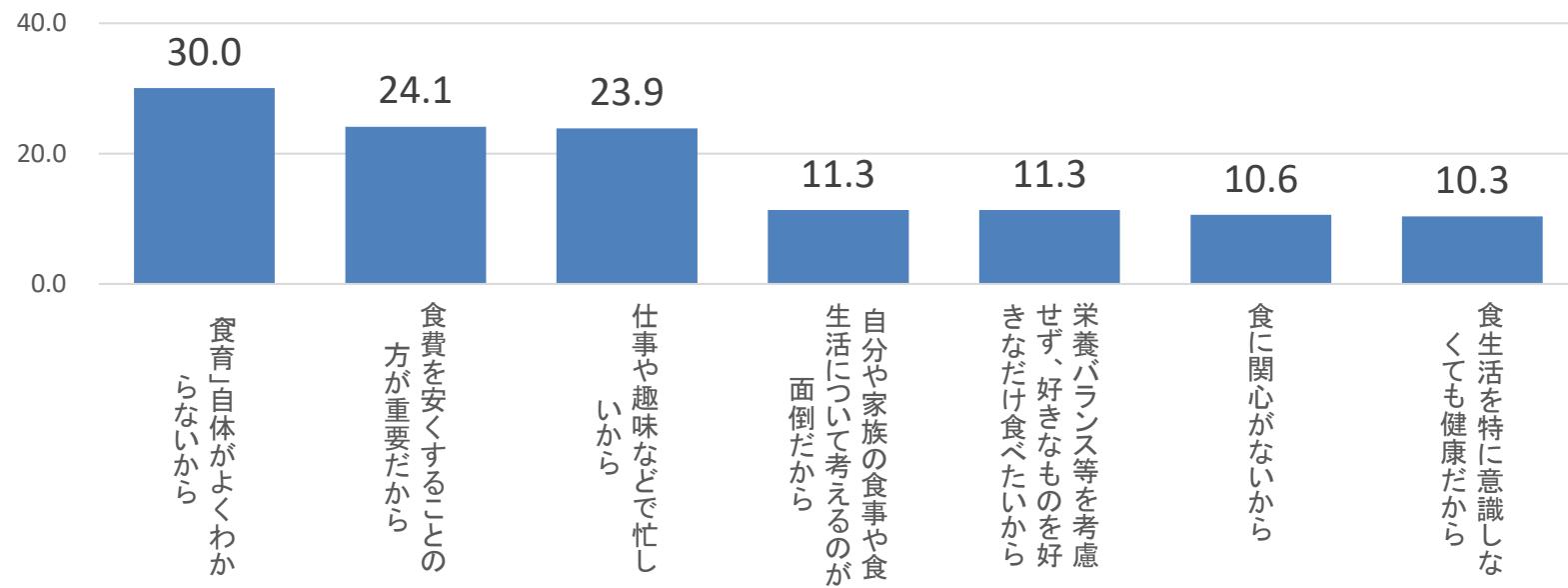
食育に関心がある人の割合（令和6年度）



データの動向

- 食育に関心がない、どちらかといえば関心がない、と回答した人に、食育に関心のない理由を聞いたところ、「食育」自体がよくわからないと回答した人が30%と最も多い状況でした。「食育」を目にしており体験する機会を作り、食育への理解を促す必要があると思われます。

食育に関心のない理由(複数回答)



新たに目標として設定する項目②

目標項目	ベースライン値	目標値 (R12)	データソース
地域等で共食したいと思う人が共食する割合 (成人)	71.3%	75%以上	R6食育・食生活実態調査

目標値の設定理由

- 誰かと一緒に食事をすることで、規則正しく、バランスのよい食生活の実践につながることが期待されることから、地域で共食したいと思う人が共食する割合を目標としました。
- 国の第4次計画の目標値である75%以上を目標値として設定します。

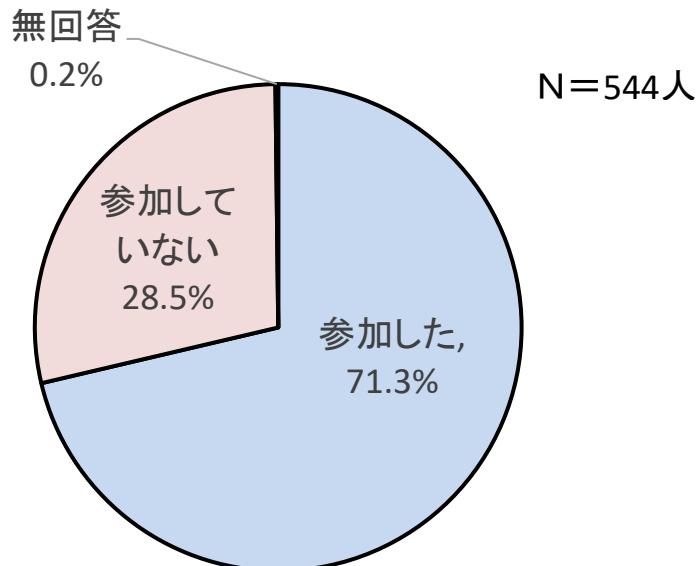
【参考】国第4次計画の目標

「地域等で共食したいと思う人が共食する割合」
ベースライン値 70.7% → 目標値 75%以上

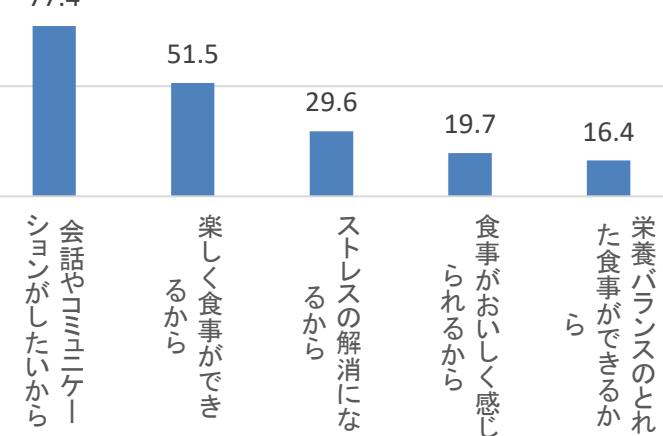
データの動向

- 地域等で食事会等の機会があれば参加したいとした人のうち、実際に過去1年間に食事会に参加した人の割合は71.3%でした。
- 共食したいと思う理由として、「会話やコミュニケーションがしたいから」が77.4%で最も多く、次いで「楽しく食事ができるから」が51.5%でした。

地域等での食事会等の機会があれば参加したい人のうち、昨年度参加した人



共食をしたいと思う理由(複数回答)



新たに目標として設定する項目③

目標項目	ベースライン値 (R6)	目標値 (R12)	データソース
外食や食品を買うときに地産地消を意識している人の割合	50.8%	56%以上	R6 食育・食生活実態調査

目標値の設定理由

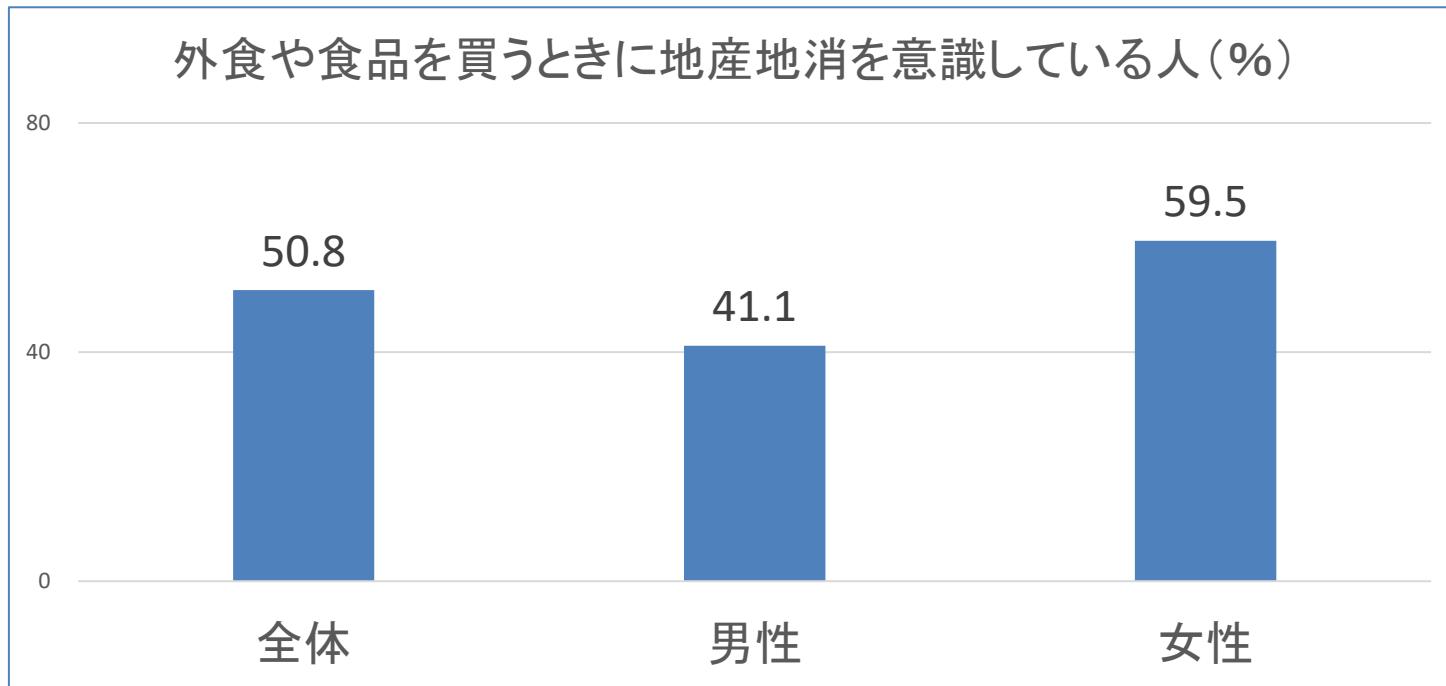
- 地域の農林水産畜産物の活用を進めるため、地産地消を意識して外食や食品を選択する人の割合を目標項目として設定します。
- ベースライン値から、おおむね 1 割の増加を目標値として設定します。

【参考】国第4次計画の目標

「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合」
ベースライン値 73.5% → 目標値 80%以上

データの動向

- 外食や食品を買うとき地産地消を意識しているの割合は、約半数で、男性よりも女性のほうが多い状況です。



新たに目標として設定する項目④

目標項目	ベースライン値 (R6)	目標値 (R12)	データソース
食材王国みやぎ 地産地消推進店登録数	528店	640店	食育・地産地消推進事業

目標値の設定理由

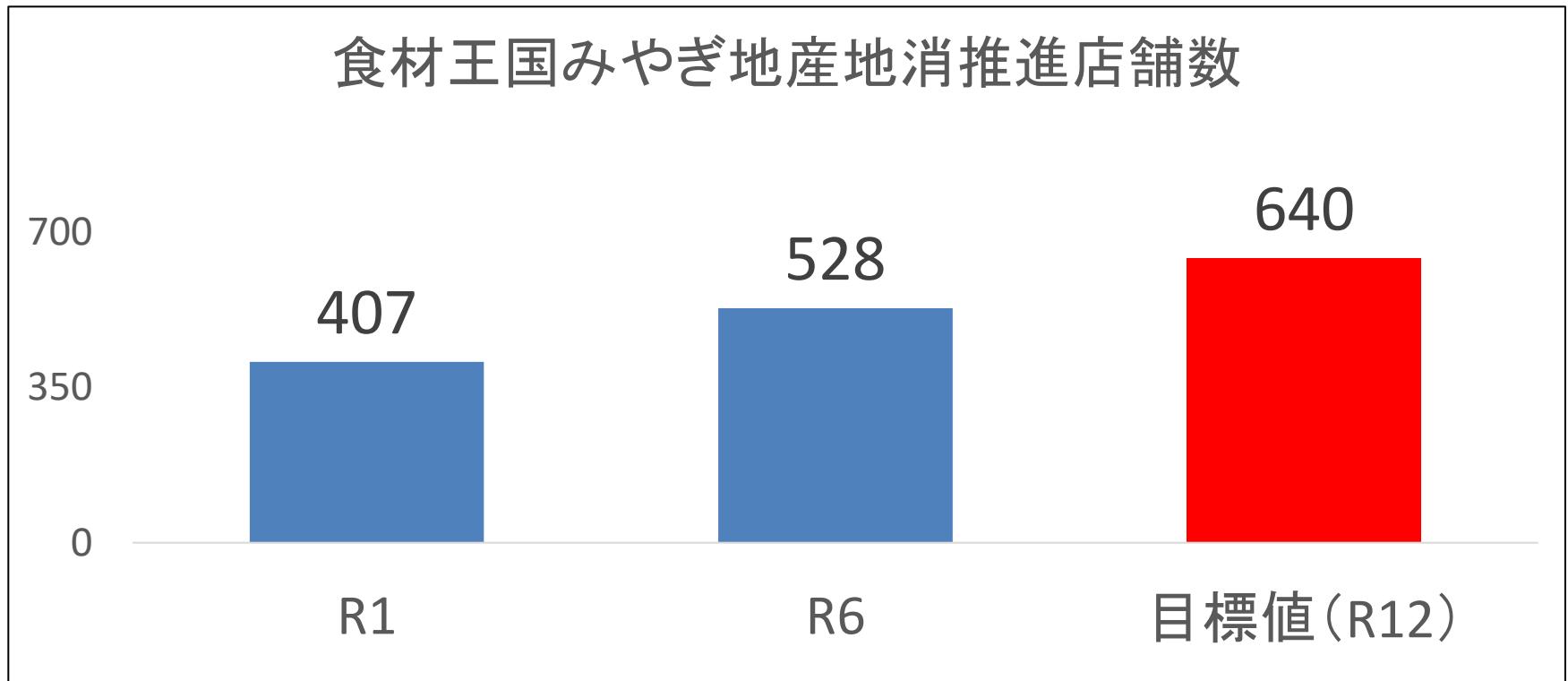
- 県民が地域食材を活用しやすい環境整備の一環として、県内で地域食材の活用やPRなど、地産地消に積極的に取り組む飲食店や宿泊施設である「食材王国みやぎ地産地消推進店」の登録店の増加を目標項目とします。
- 第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画の目標値である640店を本計画の目標値として設定します。

～食材王国みやぎ地産地消推進店～

県産食材（野菜、魚介、酒類）の使用、使用する県産食材をメニューで紹介、生産者の魅力をお客様に説明するなどの取組を実践している飲食店や宿泊施設が登録されています。

データの動向

- 食材王国みやぎ地産地消推進店の店舗数は、令和元年度は407店でしたが、令和6年度は528店となり、令和元年度比で約30%と順調に増加しています。



新たに目標として設定する項目⑤

目標項目	ベースライン値 (R5)	目標値 (R12)	データソース
食品ロス量 (家庭系・事業系の合計推計値)	7.5万 t	7.0万 t	宮城県循環型社会 推進課調べ

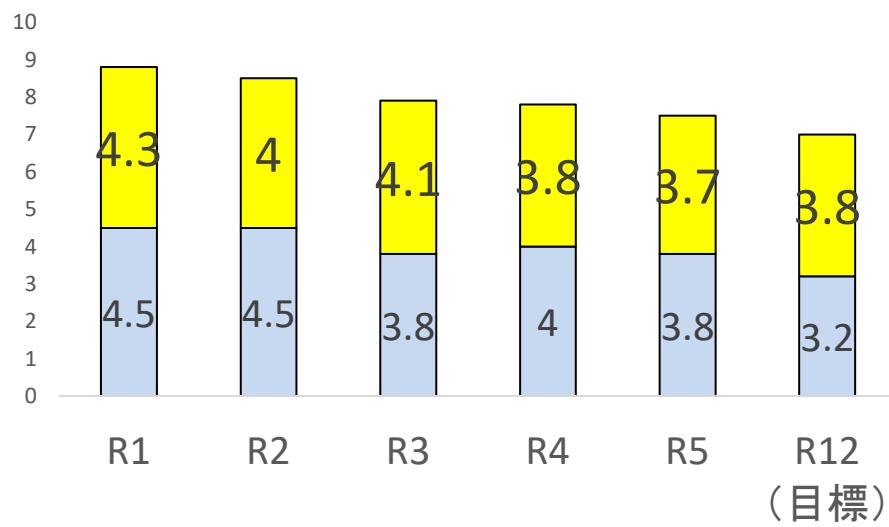
目標値の設定理由

- 第4期プランから、「食品ロス」削減に向けた活動を進めてきましたが、関連計画である「宮城県食品ロス削減推進計画」が策定され、目標値が定められたことから、この計画を踏まえて目標値を設定します。

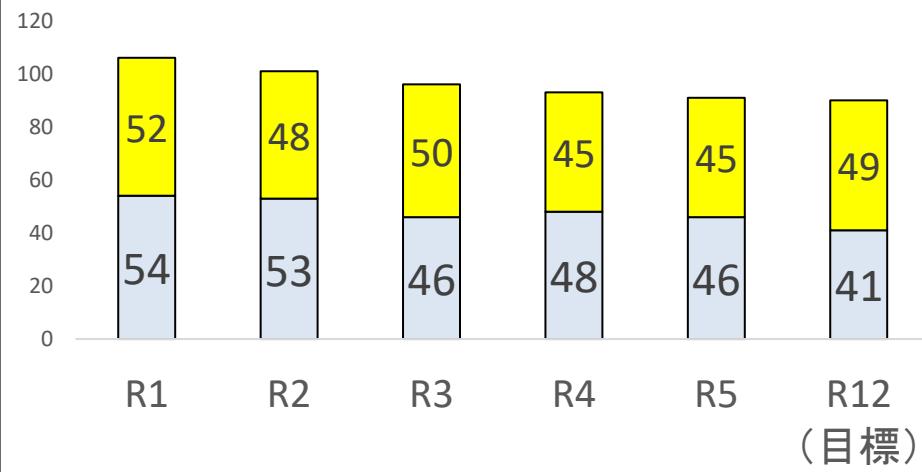
データの動向

- 宮城県内の食品ロス推計量は、事業用・家庭用とも緩やかに減少してきています。1人1日あたりの食品ロス量は、令和元年度の106gから令和5年度には、91gと順調に減少しています。

万t 宮城県の食品ロス発生推計量(総量)



g 宮城県の食品ロス発生推計量
(1人1日あたり)



新たに目標として設定する項目⑥

目標項目	ベースライン値 (R5)	目標値 (R12)	データソース
みやぎ食の安全安心取組宣言制度登録者数	1,898	2,500	みやぎ食の安全安心取組宣言制度

目標値の設定理由

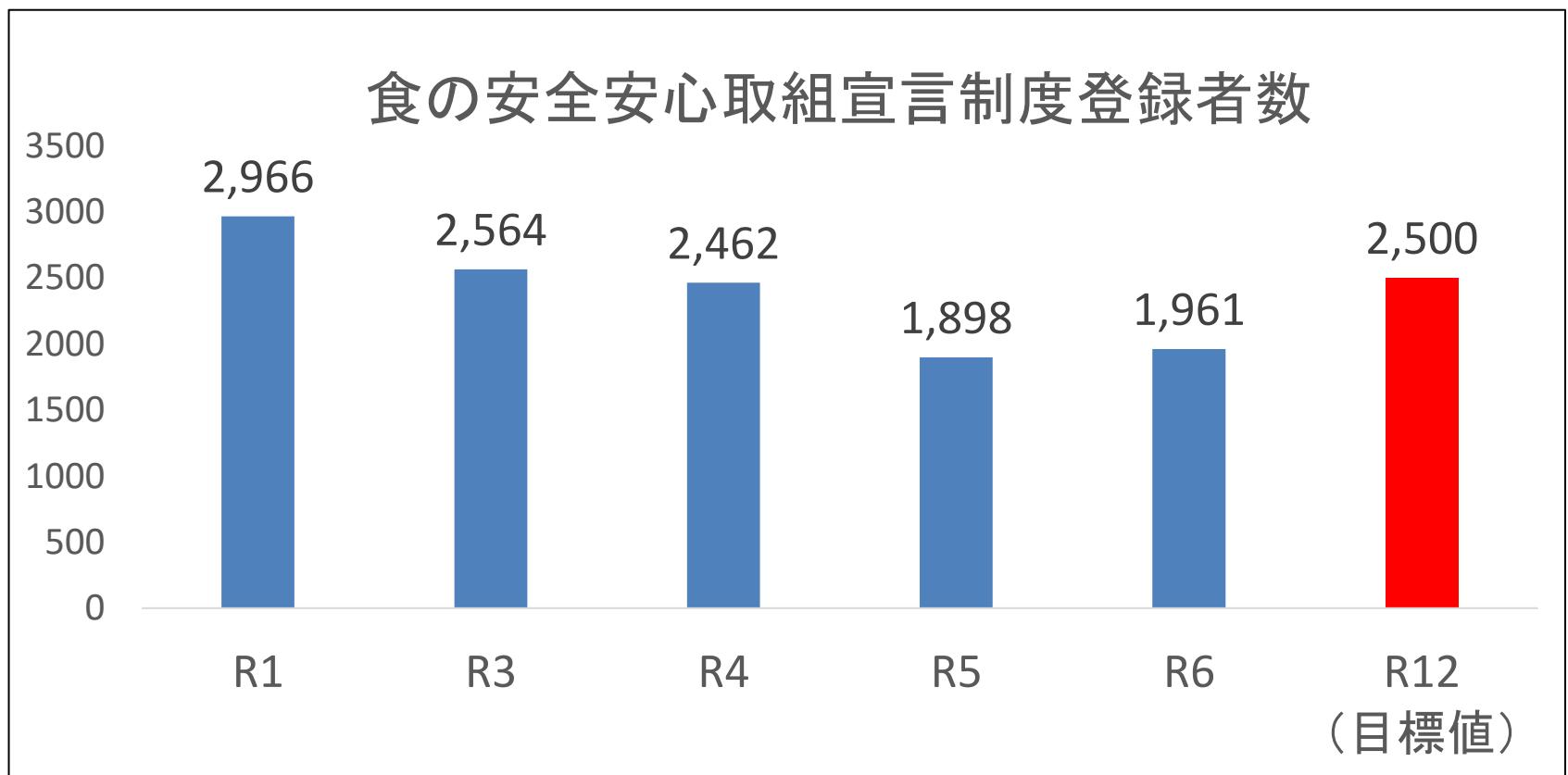
- 食の安全安心の確保に向けた取組を実践する生産者、事業者の増加により、安全・安心な食品を選択しやすい環境づくりを目指すため「みやぎ食の安全安心取組宣言制度登録者」の増加を目標とします。
- 目標値は、関連計画である「みやぎ食の安全安心基本計画（第5期）」を踏まえ、設定します。

～みやぎ食の安全安心取組宣言制度登録者～

衛生管理計画の作成・遵守や製品の自主検査項目等の設定・実施を行う食品関連事業者、栽培方法の公開や農薬使用状況の確認等を行う生産者を登録し、食の安全安心を推進しています。

データの動向

- 食の安全安心取組宣言制度登録者は、令和元年度から 5 年度までは減少傾向でしたが、令和 6 年度以降は増加に転じています。



新たに目標として設定する項目⑦

目標項目	ベースライン値	目標値	データソース
健康的で持続可能な食環境づくりに参画する団体の数	今後設定	今後設定	—

目標値の設定理由

- 県が推進する産学官が連携した「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」へ多くの団体の参画が不可欠であることから、この取組に参画する団体を増やすことを目標とします。
- ベースライン値及び目標値は、イニシアチブの活動開始後に設定します。

目標値を新たに設定しなおす項目①

目標項目	ベースライン値 (R6)	目標値 (R12)	データソース
ゆっくりよく噛んで食事をする人の割合（成人）	59.9%	66%	R6食育・食生活実態調査

目標値の設定理由

- 第4期計画では、国の目標を踏まえ、目標値を55%以上としていましたが、令和6年度の調査結果で目標値を達成したため、独自に目標を設定します。
- これまでの状況を踏まえ、ベースライン値からおおむね1割の増加を目標値として設定します。

データの動向

- よく噛んで食べる人の割合は、年々増加しており、平成28年から令和6年度までの8年間で10.8%、1年間に1.35%の割合で増加しています。

